

巣に戻したり、捕獲できない場合は、**そのままにしておきましょう。**

心化したヒナがすべて成鳥になれるわけではありません。

敵に襲われたり、生存競争の中で親鳥や兄弟によって巣から落とされたりして、命を落とすヒナもたくさんいます。そうしたヒナの命が他の生き物を支えています。

鳥

START

みつけたのは？

哺乳類

おとな（成獣）ですか？
子ども（幼獣）ですか？

はい

羽毛は生えそろっていますか？

巣立ち後のヒナ（巣立ちヒナ）
もしくは成鳥

シジウカラの巣立ちヒナ

- 巣立ちヒナの特徴**
- ・ 地面にうずくまっていたり、うまく飛べない
 - ・ 羽は生えそろっているが、成鳥に比べて尾羽が短い
 - ・ くちばしの両端に黄色や白色のふくらみが残る
 - ・ 色味が親鳥より淡くぼんやりしている

巣立ち前のヒナ（赤裸・地肌が見える）

巣立ち前のシジウカラのヒナ

体温が下がっているようであれば、**保温します。**

巣立ち前のヒナの保温の仕方
丈夫なビニール袋にお湯を入れて箱の中に置き、ヒナの座る場所が38から40度くらいを保つようにしてください。温まって鳴くようになったら巣に戻します。

はい

出血・骨折はみられますか？

救護施設にご相談ください

はい

元気はありますか？

いいえ

元気がない
羽を膨らませている

いいえ

意識がない

元の場所に戻して立ち去ってください

- 巣立ちヒナの場合、親鳥は周囲に分散している巣立ちヒナを順番に世話をしています。**親鳥が警戒して近寄れないので**、元居た場所に戻して立ち去ってください。数日以内ならば親鳥はヒナを探しています。
- 人間が触って臭いがついていても親鳥は気にしません。
- 数mくらいなら、車道など危険な場所から移動しても大丈夫です。

<元気がない>

体温が下がっていると思われます。鳥の平熱は40～42度くらいです。鳥を触って温かくないと感じたら**保温して**様子を見ます。

保温の仕方
ペットボトルなどに熱いお湯を入れて、布や新聞紙でくみ、鳥に直接触れないように箱に置いて箱内を保温します。元気が出てきたら、元いた場所に戻して立ち去ります。
※ 使い捨てカイロは熱すぎたり、酸素を消費したりするので使わないでください。

保温の仕方

<意識がない>

窓ガラスなどの近くで意識がない場合は脳震とうを起している可能性があります。数分から数時間で回復することがあるので、そのまま様子を見てください。

ガラス窓についた衝突した鳥の跡

巣もしくは代用巣に戻して立ち去ってください

代わりの巣(代用巣)の準備～巣に戻せないとき～

1. カップ麺の容器やザル、小箱などに水抜き穴を開ける。
2. ヒナの顔が少し出るくらいの深さに調節しながら新聞紙などを敷く。
3. 元の巣の近くの、雨や直射日光が当たらない場所に設置する。(無理せず、安全に取り付けられる場所に)

※ 元の巣から多少離れてても、親鳥はヒナの鳴き声を聞いてエサを運んでくれます。

代用巣の設置例

親の帰りを待っている可能性が高いので、触らず立ち去ってください

人間が保護してしまうと、親と引き離すことになってしまい、自然界で生きていくことを学ぶ機会を奪ってしまいます。

- 哺乳類は、授乳の回数が非常に少なく、1日1回ということもあります。授乳を済ませたら親は食事に出かけ、幼獣は目につきにくいところでじっと隠れて親の帰りを待っています。中でも、タヌキは子育てを側溝や縁の下などで行い、子どもたちだけで残ることが多いです。雨が降ったり危険があると、子どもを順番に運び、別の巣へ引越すこともあります。
- 幼獣に人間や人工物の臭いが付くと親が警戒して子育てを放棄してしまうことがあります。**絶対に触らないでください。**
- **エサを与えないでください。**特に牛乳を与えるとお腹をこわして死んでしまいます。
- タヌキは横浜や川崎などの市街地にも生息しています。

タヌキの幼獣

動けるなら見守ってください

人間が追い回したり、押さえつけたりするだけでも野生動物にとっては大きなストレスとなり、死亡することもあります。また、**必死で抵抗してくるため、無理に捕獲するのは危険です。**

皮膚病の動物がいたら
毛が抜けて皮膚がガサガサの動物は、疥癬(かいせん)という感染症にかかっている可能性があります。疥癬自体は命にかかわる病気ではないので、動けるようなら、そのまま見守ってください。

- 屋外にエサとなるものを置かない、巣となるような穴や隙間をふさぐなど、居つづ要因をつくらないようにすることが大切です。
- 疥癬はヒゼンダニが媒介するもので、人やイヌ、ネコにもうつる可能性があります。

疥癬のタヌキ

巣立ちヒナは拾わないで！！親鳥にしか教えられないことがあります

5月から8月頃にかけて、多くの鳥が繁殖期を迎え、巣をつくり、卵を産み、ヒナを育てます。身近に見かける鳥たちはふ化後10日から2週間程度で巣立ちますが、すぐに自立するわけではなく、しばらくは親と過ごし、生きていくのに必要なことを学びます。

巣立ちヒナを親鳥から離してしまうと、自然の中で生きていくために必要なことを習得できず、生き残れません。

ただいま訓練中

飛び方

最初はうまく飛べません。親鳥に誘導され、だんだん長く飛べるようになります。

エサの取り方

どんなものが食べられるか、どうやってとるのか、親鳥を見ながら覚えていきます。

危険からの回避方法

敵になる生き物や身を守る方法を学びます。

コミュニケーションの取り方

仲間とのコミュニケーションの方法も学びます。